

「東秩父村」で和紙の紙漉き体験と地域学習に取り組みました

短期大学 三國ゼミナール（1年生）

1.東秩父村と城西短期大学

東秩父村と地域学習

東秩父村は、埼玉県の北西部に位置し、秩父郡に属する埼玉県内唯一の村です。山々に囲まれた、自然豊かな地域です。たくさんの魅力にあふれた地域である一方、埼玉県の消滅可能性都市にも指定されるなど、人口減少などの課題も抱えています。

東秩父村と城西短期大及び城西大学は、2024年1月31日に、相互連携に関する基本協定を締結しました。産業、文化、学術等の分野で相互に協力し、地域の発展と人材の育成に寄与することを目的とする協定です。

この協定をきっかけに、東秩父村と城西短期大学及び城西大学との交流がいくつか新たに始まりました。城西短期大学の三國ゼミ（1年生）は、田淵ゼミ（1年生）と合同で、東秩父村での地域学習に取り組むことになりました。

ゼミナールの授業で、東秩父村の自然・伝統・教育・医療などについて、グループで学習したりプレゼンテーションをしたりして、お互いに村についての理解を深めていきました。同時に、湧き出てきた疑問に関しては、東秩父村の役場の職員の方に回答していただきました。



↑東秩父村役場での地域学習

2.東秩父村の伝統工芸にふれる① ー 紙漉き体験をしました ー

東秩父村の和紙の過去と現在

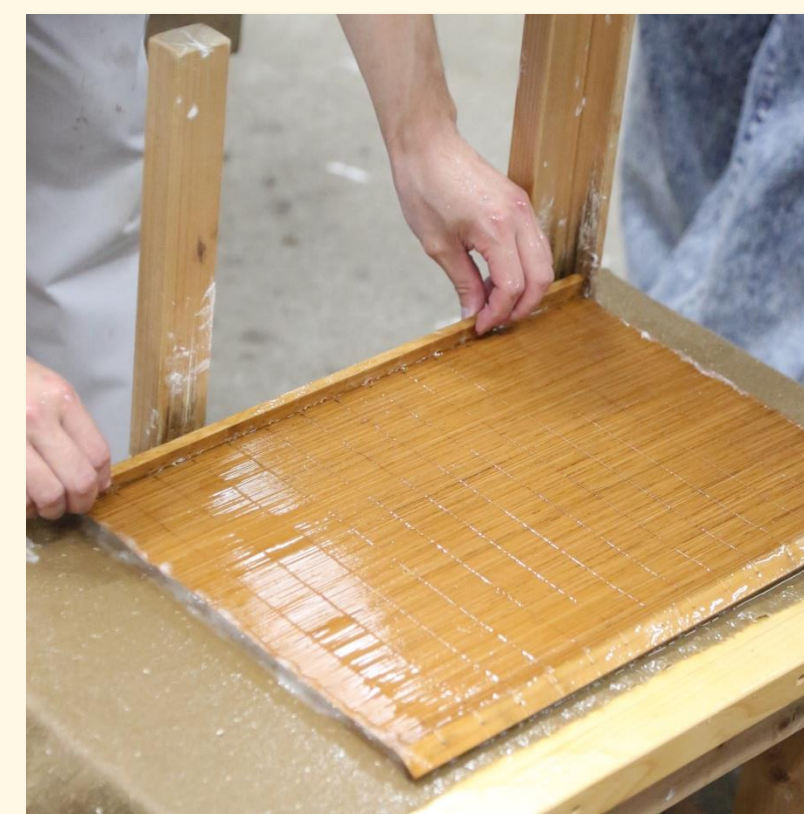
東秩父村では、1300年も前から和紙づくりがおこなわれています。武蔵国には高麗の帰化人が多く、彼らによって武蔵の紙は広められ、手漉きの技術をもたらしたのが小川和紙の始まりだといわれています。当時は写経用や戸籍用に用いられ、平安時代になると貴族の使用が増え、室町時代には建築にも取り入れられました。一番古い和紙は”美濃和紙”といい、1969年には制作技術が国の重要無形文化財に、1985年には美濃和紙として国の伝統的工芸品の指定を受けました。

現在は耐久性、強靱性を生かし文化財の修復に使用されるほか、天然素材の地球環境に優しい製品として、日本国内だけではなく、世界中から和紙への注目が高まっています。しかし、原料が限られてしまうことから生産性が低くなってしまふことと価値が高くなってしまいます。そのほかにも、シミの発生や繊維の脆化が欠点となっています。

紙漉き体験

和紙の里（和紙製造所）で和紙漉き技術を見学して、楮などの繊維が原料であることを学びました。私たちは一人ずつ自分の手で触れて、紙漉きを体験しました。「漉き舟」とよばれる水槽に加工された「楮」などの原料を水とともに入れて、均等に分散させます。「漉桁」を傾けて漉き水をすくい上げ、漉き水を縦、横方向に往復させるように繰り返し揺らします。そして、漉きあがった和紙は平らの台上に積み重ねられて、自分の名前が書かれた小さな和紙を貼り付けます。数日の乾燥を経て、和紙作りが完了しました。

今回の体験を通じて、和紙の工房を見学し、和紙作りの知識を学び、和紙作りの過程を自ら体験しました。技法によって異なる種類の和紙（柔らかさの違い、色の違いなど）も見て、和紙で作った製品、和紙で描く木版印刷や日本画も見ました。本当に忘れられない体験でした。



3.東秩父村の伝統工芸にふれる② ー 和紙の里をめぐりました ー

和紙の里 散策

和紙漉き体験の後、茅葺屋根のお家に行きました。外は暑かったですが、家の中は涼しかったです。昔使われていた和紙を作る道具がたくさんありました。この家にいたおばあちゃんが麦茶を作ってくださいました。とてもおいしかったです。

昼食を食べた後、ハイキングコースに行きました。階段が急で、長くて登るのがきつかったですが、頂上には、とてもきれいな景色が待っていました。頂上に着いたときは達成感があり、空気が澄んでいました。この日は天気も良かったので見晴らしがよく、コースも変化があり、飽きなくて友達と楽しく登ることができました。頂上では、おじいさんが双眼鏡で景色を見ていました。

ハイキングコースから帰ってきた後、お土産屋さんや、食べ物屋さんなどが並んでいるところに行きました。お土産屋さん以外には、ソフトクリーム屋さん、いわしの塩焼き屋さん、ラーメン屋さんがありました。平日だったため、ラーメン屋さん以外は休業でした。お土産屋さんには、こまをまわして遊べたり、和紙でできた小物などがたくさん販売されていました。また、高級篠笛も展示されていました。秩父夜祭りなどで活用されている笛が30本ほど展示されていました。

和紙の里を散策して、自然を感じることができました。緑がたくさんあり、昔の造りの建物が多かったののでいい思い出になりました。



地域連携活動発表会

2023

4.東秩父村役場での地域学習① — 少人数教育&ゆるキャラ —



少人数の児童を生かした教育について

東秩父村には、小学校と中学校が各校ずつありますが、高校はありません。東秩父村の教育について実際にお話を伺い児童の数が少ないため音楽会などは小中合同で行わざるおえないですが、一方で短縮授業などでも負担のない「タクシー下校」を利用することが出来、少人数だからこそ出来るメリットを知ることができました。

短縮授業の時はバスの出ている本数が少なく利用することが出来ないため、「タクシー下校」が行われています。東秩父村は両親が村の外に働きに行っている方が多いため、また、児童の人数も少なくバスを1本呼ぶより経費を抑えることができるため、タクシー下校が利用されています。タクシーは隣町の小川町のタクシー業者をお願いしており、費用は地方交付税が7割、村が3割を負担しています。そのため各家庭は負担がありません。

私の出身小学校は、人数が多く校庭に新しい校舎を建てるような大人数の学校だったため、少人数の学校・教育についてのお話はとても興味深く感じました。

東秩父村のゆるキャラについて

東秩父村のゆるキャラについて説明します。まず、ゆるキャラの名前は**わしのちゃん**（写真右上）といい、国の重要無形文化財である細川紙の巻紙をモチーフにした、着物姿の大和撫子の可憐な女の子です。容姿は、頭部は和紙の巻紙、着物は東秩父村の中央を流れる槻川をイメージしたブルーの帯に、村章を象った帯留めをしています。そしてわしのちゃんには家族がおり、お父さんの「楮造」、お母さんの「とろろ」、おじいさんの「三桎」、おばあさんの「すきふね」、双子の妹の「あおい」、そしてわしのちゃんの6人家族となっています。わしのちゃんを含め、全員「和紙」に関する名前がついており、一家6人は仲良く全員で「和紙の里」に住んでいるのだとか。

わしのちゃんがPRしている『細川紙』の伝統的紙漉き和紙の製法技術は、1978年に国の重要無形文化財に指定され、2014年にはユネスコ無形文化遺産に登録され、そんな『細川紙』のすばらしさをもっと広く知ってもらうために、村外のイベントでもPR活動が続けているとのこと。

最後に、わしのちゃんのPRです。本名は槻川わしので、10月10日生まれのも永遠の10歳。おしとやかな性格で、特技は紙漉き。趣味は自然観察だが、紙だからか湿気が苦手。好物は東秩父村B級グルメである「あずきすくい」。

以上が、東秩父村のゆるキャラ、わしのちゃんの説明でした。

5.東秩父村での地域学習② — 無医村対策 —

無医村対策

(1) 現況と問題点～医療の確保～

村内唯一の診療所が平成26年12月で閉所し、無医村状態が5年以上 続いており、村民は近隣の医療機関へ通院しています。今後村民への医療サービスをどのように確保するか、関係機関と検討する必要があります。

また、こども医療費拡充などを行ってきましたが、これからも医療費負担の軽減を図るための支援が求められています。

(2) その対策～医療確保 ・医療確保対策の推進～

医療関係機関との連携を深め、医療の確保と救急体制の充実を図ることに取り組んでいます。保健センター機能を充実させるとともに、医師会や保健所との連携を深め、医療情報の提供により、村民の健康づくり事業等を推進する。 また、こども医療費拡充について、現在では高校3年生までを無料化対象としており、地域生活の支援とさらなる福祉の向上を図っています。

今では診療所を運営できる人がいないため、診療所を作ることができないでいる状態が続いています。イーグルバスで隣町の病院まで高齢者などを送り向かいしてくれています。タブレットを配布しているが、ネットで診療するのも難しいのが現状だそうです。

6.東秩父村での地域学習③ — 財政&空き家活用 —

東秩父村の財政について

地方の財源が20億8800万円となり、財源のうち住民からの税で集めたものが22～23％程度、国や県からの地方交付税が約12億円です。地方交付税は毎年ほとんど同額ですが、5年ごとに行われる人口の統計調査によって交付額が増減することがあります。地方交付税は返還するものですが、返還するための財源を確保することができるのかも問題となっています。村民を増やす、観光客を呼び込む等、現状でも策を練っています。

人口と財源は相関関係にあるため、このまま人口減少が進むのならさらに切迫した状況になるであろうことが予想できます。観光に力を入れ経済を回そうと施策されていますが、それでも十分な財源とは言い切れません。今後の財源確保の施策にも注目したいです。

人口について

6月時点で東秩父村は1059世帯、人口2443人であり、さらに年代別で見ると、60歳以上1325人、20歳未満201人、性別で分けると男性1229人、女性1214人です。60歳以上の人が半数以上を占めていることが分かります。20歳未満の人は全人口の約8.2％程度です。高齢化が進行しており、若者も働く場所を求めて村外へ行きます。このままでは人口減少の一途をたどることになります。

東秩父村には豊かな自然が広がっているため、生活する上で不便を感じる部分もあると考えます。住みやすく、働きやすい地であることが理想ではありますが、東秩父村の自然を壊したくないという考えも分かります。快適な生活と自然の共存によって東秩父村の人口が増えることを願います。

空き家活用について

現在、東秩父村の空き家の数は137件以上あります。ただ、空き家バンクは存在するものの、空き家を手放さない人が多いため、なかなか空き家バンクに登録をしようとする人が増えません。

他にも、空き家バンクを利用した際の、村外から来た住民とトラブルになる恐れがあるため、空き家を手放さない人が多いことも考えられます。

年々空き家が増えていくなかで、村がどのようにして空き家を活用していくのか、またはこのまま空き家を放置するのか、疑問が残りました。

また、空き家バンクを利用しても近隣住民とトラブルにならないようにするために、村がどのような対策をし、元々いた住民をどのように納得させるのか（それとも何もしないのか）、いろいろ考えさせられる問題でした。

